

第5回 市川三郷町 第3次総合計画審議会
議事要旨

日時：令和6年11月22日（金）午後2時00分～午後4時30分

場所：市川三郷町本庁舎1F 大会議室

出席者：加藤委員、渡井会長、一瀬委員、塩沢委員、市瀬副会長、浜野委員、片山委員、依田委員

欠席者：青沼委員、小林委員、長田委員、笠井委員、渡邊委員、村松（昭）委員、村松（て）委員

資料：市川三郷町第3次総合計画素案

リーディングプロジェクト

スケジュール

意見記入用紙

次第

- 1 はじめのことば
- 2 政策推進課長あいさつ
- 3 議題

（1）第3次総合計画素案

事務局から説明。

【質疑】

《第1章序論について》

○非常事態宣言を発出されてから、行財政改革推進計画が策定されたが、それが総合計画にどのように配慮された、もしくは反映されたのか。（渡井会長）

⇒行財政改革推進計画の内容としては、縮減経費を基に将来への投資を持続的に展開することにより、町民の皆様とともに新たな時代へ対応し、持続可能な市川三郷を目指すという記載があり、その未来への投資という部分と新たな時代への対応の部分が今回の計画では肝になってくる。新たな時代への対応については、国の示しているデジタル田園都市国家構想の総合戦略を踏まえた計画であること、持続可能な市川三郷を目指すという部分では、SDGsを各基本施策に関連付けた作りとして配慮したこと、行革への配慮という点については、リーディングプロジェクトで財政状況について記載し、将来への投資という部分では、人口ビジョンや、将来像、基本構想の実現に向け、各事業が未来への投資となるような構成としている。

○今の事務局説明であれば、理解できるが、非常事態宣言が報道されたあとの総合計画（10年計画）はすごく大切になるという認識。しかし、リーディングプロジェクトの1ページでは、中身の具体性が非常にわかりづらい。

⇒策定において、住民アンケートやワークショップの開催で、住民参画を意識して策定の方を進めてきた。周知については、広報や町のホームページ、SNSへの周知を考えている。また「ぼくまち市川三郷」という団体が、主に若者目線で、イベントの企画運営や、ラジオ、地場産業とのコラボを実施して、市川三郷の魅力を発信しているのので、こういった団

体との連携によって積極的に住民に発信していくことを検討している。もう一点、策定後もワークショップを開催し、町民とまちづくりについて、アイデアを出し合い、形にしていけるようなことも、今後検討していきたい。

○リーディングプロジェクトの「稼ぐ力の向上」「交流人口の創出」方向性に主な事業の記載があるが、これらが先導的役割を果たしていくことをもっとPRしていかなければ、理解できないのではないか。(渡井会長)

⇒今回の計画策定において、目玉となる重点的に取り組むものが見えてこないと意見をすごくたくさんいただいた。意見を踏まえて、リーディングプロジェクトとして、見える形で記載した。周知については、ワークショップなどで住民と一緒に取り組んで行く方法を検討していくことになる。予算編成の際に最優先で予算をかけていく項目として取り組んでいきたい。

○議員が審議会メンバーから外れた理由を可能な範囲でご教示いただきたい(塩澤委員)

⇒全ての会議の場ではなく、特に総合計画は3月議会で上程する際に、審議会メンバーに議員が入って答申されたものに対して反対意見を出せないという考えで、今回外れたとのこと。議決事件以外の計画に関しては、これまで通りメンバーとして入ることになる。

○リーディングプロジェクトで質問。六郷インターチェンジはまだ何も動いていないとの認識だが、何か動きがありそうなのか。(塩澤委員)

⇒企業自体は決まってないが、六郷インターを含めた六郷地区の活性化を目指すためには、工場を誘致したりすることが重要だと考えているので、重点施策として取り組むためのもの。まずは企業への土地のPRから始めていきたい。

○六郷インターチェンジの周辺の基盤整備は、例えば企業誘致や工業団地化する際、区画整理や、あるいは水道や道路を整備して誘致というのが一般的な動きだと思うが計画はあるのか。(渡井会長)

⇒上下水道の整備については国の許認可をとる手続き中。7区画あるうち、はじめの区画を重点区画としており、企業が誘致できた段階で、水道の引き込みを考えている。

○7区画の面積や形状はきまっているのか。(渡井会長)

⇒ある程度決まっている。

○8ページの魅力について、六郷について、文章の「近年では・・・」につながる文章で「図られています。」と記載があるが、現状との差があるので、記載がちがうのではないのか。(依田委員)

⇒中部横断自動車等の開通自体が広域的な意味となっている。

○リーディングプロジェクトの数年後のリニアとあるが、数年後には開通しないので、現状と合わない。稼ぐ力のキーワードについて、誰が稼ぐのか、町民は町外に働きに出ている人が多いので、町内の方が多くなるのは可能なのか。またリーディングプロジェクトが将来像につながっているが、これが適切なのか。わかりやすくなっているが、全体像が見えない。(依田委員)

⇒リニアについては修正する。稼ぐ力のキーワードについては、町長との話の中で、GDWの方向性をまとめたものになっている。誰が稼ぐのかについては、町全体で稼ぐことを念頭において、30ページでは指標にも納税者一人当たり所得をあげることが掲げている。行財政改革の中で、歳出削減に取り組んでいるところだが、歳入にも目を向けていかなければならないと考えている。

○「稼ぐ」は動詞になるので、「誰が」が必要になるので、書きぶりを検討していただきたい将来像とのつながりが見えづらくなっている。まちとしてどのように進めていくのかも踏まえて、検討していくことでお願いしたい。

⇒検討する。

○非常事態宣言出している中で、「稼ぐ力」はインパクトがあって良い。(塩澤委員)

○今、財政の取組で止血をしている状況であるが、そこからは何も生まれないので、止血後どのように収入を増やしていくのか、将来への投資に回していけるのか、との発想だと思う。「稼ぐ」のは市川三郷町という自治体がインフラ整備をするための税金などを上げるために、まずは町民一人ひとりの生産性を向上させていく意味合いもあると考える。(加藤委員)

○将来像とのつながりが見えづらくなっている。まちとしてどのように進めていくのかも踏まえて、検討していくことでお願いしたい。(渡井会長)

⇒検討する。

○全体的に平仮名が多いので漢字に直してほしい。中央通りにアパレルの企業が入り、意気込みをもった若者の話を聞いたので、31ページにある通り、産官学金との連携をしていただきたい。高崎市はだるまを海外に販売することが推進しているので、和紙も海外向けとするのも良いのではないかと。(片山委員)

⇒文字の表記については、校正も今後していくが、担当課があえて使っているところは、修正できないかもしれない。

○将来像とリーディングプロジェクトについては、わかりやすく良い。経済力や人口交流で支えているという表現は理解できる。(一瀬委員)

○8ページの魅力について、三珠地区は農産物メインとなっているが、もっと魅力があるのではないかと。芦川溪谷はきれいだがPR不足なので、町として発信力を高めていけば観光人口も増えると思う。フットパスも取り入れてはいいかと思う。町内外にPRにつながると思う。(市瀬副会長)

○計画は文字が多くなっている。町の魅力をアピールするのであれば、空白ページや空欄を活用して、魅力をPRできればよいと思う。(渡井会長)

⇒今後構成を固める段階で検討していきたい。

○3ページについて、位置付けや構成について記載があるが、後半部分では、基本計画は6本柱、戦略は4本となっており、さらに施策が紐づいているので、組み立てについて、説明書きなどで冒頭に示した方がよいのではないかと。(渡井会長)

○12ページにDXの注釈があるが、注釈の中に使用されているICTの説明もいるのではな

いか。15ページのユニバーサルはどの意味で使っているのか。18ページの課題の「(3) 将来につながるまなびの拡充」について、3地区に中学校があると記載があるが、統合を検討されているのであれば、記載内容を見直した方が良い。その際は「拡充」という言葉の見直しも必要ではないか。(依田委員)

⇒ユニバーサルは、「誰にとっても」の意味合いである。中学校については、今年度中に方向性は示して、いつ統合するかは今後検討となるので、記載内容は教育委員会と検討していく。

○小中学校の配置については、今年度中に方向性が示される予定となっている。(一瀬委員)

○中学校がなくなっても、「拡充」の意味はなくならないと思う。(一瀬委員)

《第2章基本構想について》

○リーディングプロジェクトと絡めて、将来像を眺めると、将来像の文言が少し軽い感じがする。将来像の想いで修正された箇所について、「住民が楽しめる町であること、さらに、住民同士の繋がりから生まれるアイデア、光を輝かせることができるまちであること」とあるが、楽しむ前に必要なのは「安心安全」だと思う。それから繋がりから生まれる「光」の意味がわかりづらいので再考していただきたい。

25ページについて、(3)福祉と健康に「社会的」の言葉を追加してはどうか。

(6)協働と行政運営の「住民の」→「住民に」に修正すべき。(依田委員)

⇒将来像は、ワークショップでの町民のご意見をメインに作成したので、なじみやすいものになっていると思うが、ご意見を踏まえて検討していきたい。誤字については、修正する。

○「安心安全」は前提なので、楽しめることは安全安心であることを表していると思う。「光」について、つながることで輝くことの意味として捉えている。光を輝かせることは、そこは繋がりがあり、それぞれの繋がりを持って1人1人が輝く意味だと思う。(一瀬委員)

○介護関連で支え合いを考えるまちづくりについて、各地区でやっているが、住民同士の繋がりが希薄になっていることが話題となっている。そういった部分では、繋がりは良い言葉だと思うが、そこから生まれるアイデアや光には、まだ繋がっていない。これから人口減少で繋がれないことも多くなる。若い世代の人が繋がれるような、そういう発想がないと難しい状況となると考えられるので、将来像の再考も必要と考える。(依田委員)

○26ページの6本柱にして、優先順位が見えないようにデザインでどうにかしてほしい。

(塩澤委員)

⇒意見として参考にさせていただく。見やすいように工夫が出来ればと思う。

○将来像について、個人的にはキャッチフレーズとしては良いと思う。町民がどれくらい受け取るか、なのでインパクトがある方が良いと思う。あえて言うのであれば、「稼ぐ力」が将来像につながるがいまいち理解できない。(塩澤委員)

○第2次の将来像と比べると、将来像はわかりやすくなった一方で「稼ぐ力」がマッチングしないので、可能な範囲で調整していただきたい。21ページは人口ビジョンを示しているのか。その場合は、目標をしっかり示した方が良いのではないのか。人口ビジョン下部の

表は、社人研推計値を上回るとするのが良いのではないかと。他自治体を参考に検討していただきたい（渡井会長）

⇒リーディングプロジェクトの見せ方は検討していく。また、人口ビジョンについては、目標を示すものとなっているので、少し表現は工夫していく

○他自治体の将来人口の表記も踏まえて、検討いただきたい。（渡井会長）

《第3章 基本計画》

○P41のリテラシーについて、意味がわかりづらい。（市瀬副会長）

⇒注釈で対応したい。

○P43のレファレンスサービスについて、いち早く導入していただきたい。（市瀬副会長）

⇒既にも実施はしているので、“強化”や“充実”と記載を改める。

○今、町内の図書館を一つにする計画があるが、移動図書館の導入等は計画にあるのか。（市瀬副会長）

⇒生涯学習課から移動図書館を購入する案もあったが、財政状況を踏まえて見送りとなった。三珠と六郷の図書館は休止となっているので、図書コーナーとして残していくなど検討している。

○図書館について、休止となっているが、廃止とは違うのか。青洲高校は自習室を開けてほしいとの声もある。町外からも来ている生徒もいるので、いいPR機会だと思う。図書館に意見箱を置き、その意見が実現するともっと良いまちとなると思うので、生徒に魅力を伝えることを踏まえた施策が必要だと思う。青洲高校は町のアドバンテージとなると思う。（塩澤委員）

⇒条例で毎週月曜日が休館となっているので、テスト週間に開館できるかなどについては、検討したい。

○役場の前に高校があるので、ポテンシャルを活かした施策がないと思う。（渡井会長）

⇒検討する。

○35ページの観光について、町には宿泊施設がないので、六郷にキャンプ場を整備してはどうか。宿泊を伴うことでお金を落としてもらえるような、町を循環する取組があっても良いと思う。少しずつ町の魅力が広がるとインバウンドにもつながると思う。ムスリムについて、日本人もそれほど多く訪れないのに、イスラム系の方が来るのか疑問であり、指標を立ててやることなのか。42ページの現状と課題の一番下の○について、体育施設とはどの施設のことか。（依田委員）

⇒体育施設とは、町民体育館、公園も含めての表記であり、総合計画なので抽象的な表現となっている。観光について、ホテルを建設するのは難しいが、現在市川公園で、マウンテンバイク施設やキャンプ施設を整備して、トレーラーホテルも検討している。四尾連湖と繋げるツアーもすでに始まっており、インバウンドも増えている。拠点としては整備が進んでいると考えている。ムスリムはオマーンとインドネシアとの交流に関係した施策にな

っており、施設については礼拝の施設の意味となっている。

○マウンテンバイクの件については、計画に入れてはどうか。(渡井会長)

⇒現状を踏まえ計画に記載していく。

○みたまの湯に宿泊施設を作ることになっていた話はどうなったのか。(片山委員)

⇒来年から、指定管理者の新しい業者と進めることになっている。

○64 ページの防災減災について、計画全体からのバランスを見たときにボリュームが薄いと思う。もう少し町民に対して、意識づけや自主防災組織の支援について、ご検討いただけないか(渡井会長)

⇒検討する。

《第4章総合戦略について》

○105 ページに記載のある青洲高校との取組は具体的にどういったものか。(渡井会長)

⇒地場産業や歴史について、町内の詳しい有識者に講師として青洲高校で授業を実施している。

○全国でマイナンバーカードの登録数は大体70パーセントを超えた数字となっているが、町内ではどのくらいの登録数なのか。(市瀬副会長)

⇒手元に資料はないが、70%は超えていると思う。

○107 ページ取組に関連して、不登校生徒への支援はあるのか。(塩澤委員)

⇒健康福祉センターの一室で、身延と市川三郷でやっている。

○111 ページについて、ホームページ運用事業とあるが、HPを訪れた人を観光情報に飛ばすなどの工夫はあっても良いのではないか。(塩澤委員)

⇒リニューアル事業は予算の問題で見送りとなっている。現在スマホ仕様になっていないことが課題となっている。

○P66 の防犯パトロールについて、下校をメインにやっているが、高齢者の詐欺防止にも活用できないか。(市瀬副会長)

⇒検討する。

○100 ページのKPIについて、「②三珠地区への若者世帯の転入者数」の目標値があまり上がっていないように見える。(依田委員)

⇒年間の目標値となっているので、このままとしたい。

○93 ページのKPI「スマート窓口を活用した顧客数」について、現状0となっているが、これは正しいのか。(依田委員)

⇒現状システムが町にないため、今後導入して増やしていく指標となっている。スマート窓口とは、書かない窓口の意味。マイナンバーカード等手続きが簡略化される。

○総合戦略にKPI、基本計画には目標指標となっているので、表記について検討してはど

うか。(渡井会長)

⇒検討する。

○リーディングプロジェクトに交流人口の創出とあるが、現状値、目標値を入れた方が良いのではないか。(渡井会長)

⇒検討する。

○本計画は町の最上位計画として位置付けられているが、その進行管理、今後どのように維持管理していくのか、あるいはマネジメントをしていくのか。計画の推進については条例に定められているのか。

⇒現在ここに掲げた指標については、進捗状況の管理を毎年行っていく。毎年担当レベルではあるが検証した上で、PDCAサイクルにより事業を推進していく予定。条例等への記載はない。

○誰もが理解できる、見やすい計画なるように進めてもらいたい(渡井会長)

(2) 今後のスケジュールについて

・答申について

○次回承認されれば答申に進むことになるので、答申案についてご意見いただきたい。(渡井会長)

○誰に答申するのか。(依田委員)

⇒この審議会は、町長から諮問を受けて審議会が開かれているので、町長に向けた答申となる。

・パブコメについて

○パブコメに向けて、本日のご意見を踏まえて修正かけ、12月に実施を予定している。

4 その他

○次回会議では原案として示してほしい。(片山委員)

5 おわりのことば

以上